

令和6年度 第3回学校運営協議会（記録）

令和6年度第3回学校運営協議会を、令和7年2月19日（水）10時00分より、5名の委員の出席のもと開催しました。

最初に学校見学を行いました。幼稚部では、新年度に小学校や本校小学部への入学を控えた年長さんが、机上で学習する様子などを参観し、小学部の1組では、それぞれの学年の教科書を使用しながら学習している様子、小学部・中学部2組では、それぞれの教室での生活単元学習等の様子を参観しました。その他、学校見学がコドモックルのリハビリ時間と重なった学級の教室や廊下に貼られた掲示物に目を向けたり、廊下で出会う子どもたちに声をかけたりしながら、幼稚部から高等部までを見学しました。



次に、教頭より、今年度の学校評価の結果について報告をしました。

保護者向けの学校評価では、昨年度の反省を踏まえて、本校の特性でもある、年間延べ200件数ある転出入に対応できるよう、今年度から配布方法を変更して実施したことで、今まで配布時期に在籍していた保護者のみの回答だったところが、年間を通して一定期間在籍した保護者の回答を得ることができるようになったことを報告しました。また、昨年度意見のあった「医療的ケアのある児童生徒の校外学習」について、今年度より本校に常勤の看護師が配置されたことで、保護者が同行しなくても、社会見学や職場実習等の校外学習に参加できるようになったことを報告しました。



職員向けの学校評価では、「校務のデジタル化」や「ワーカーライフバランス」について評価が低いことやその原因について評価の低いことやその要因についての意見等について報告しました。



委員の方々からは、「大きな集団だと分からなくなってしまう子どもたちも、マンツーマンや小さな集団で学習することで、個人のペースが確保され、より理解が深まるのではないか」「学校評価となると、どうしても低い点に着目してしまうが、高い点を教職員に伝えていくことで、学校としての志気が上がるのではないか」などのご意見をいただきました。

次に校長より、令和7年度学校経営方針について説明しました。本校は、全道各地からの入院生が在籍しており、今年度の在籍期間について、幼稚部では1ヶ月未満の在籍数が全体の60%、小学部では2ヶ月未満の在籍数が全体の50%となり、短い期間での在籍が多くなってきていること、また前籍校の地域によって使用教科書が違うため、本校の教員は、コドモックルや前籍校と連携を深めながら様々なケースに応じて対応する「対応力」が求められていることを説明し、次年度は、子どもたちが、「楽しい」「できた」「やった」という達成感を味わえるような学習をより一層展開していくことを説明しました。

委員の方々からは、「現在の教育では『つながり』が必要なので、ICTを効果的に使う方が良い。そのためには、子どもたちの興味関心を深める必要があり、様々な相手や場所とつながって、いろいろな体験をすることが、子どもたちの達成感につながることだと思う」、「先生方も楽しさを得ながら授業を行うと良い」、「校長の経営方針が先生方に具体的に伝わるための体制づくりが重要である。現場の先生方とタイムリーに話ができる窓口となる人が、学校経営の重点目標を具体的に伝達できるような体制を意識することで、『ICTを利用しているか』という論点ではなく、『子どもの目的に添ってICTを利用しているか』に変わらぬのではないか」などと、積極的な意見交換を行うことができました。

今回を持ちまして、今年度の学校運営協議委員会を全て終了しました。計3回の委員会では、毎回委員の方々と積極的な意見交換をさせていただくことができましたこと、改めてお礼申し上げます。委員の方々からいただいた、貴重なご意見を、次年度に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

(主幹教諭 白木宣子)